

公務員試験 ジャーナル

第42巻 第1号
2020年8月17日発行

特集
①

国家一般職公務員試験ガイド

職務内容

国家一般職高卒の職種には、大きく分けて事務系職種（事務区分）と技術系職種（技術、農業、農業土木、林業の各区分）がある。このうち、事務と技術は勤務地ごとに試験区分が分かれているが、農業土木・林業の勤務地は全国各地となり試験区分も1つである（農業は2020年度の実施がなく、詳細不明）。

●事務系職種《事務》

各本府省庁および出先機関において、一般事務の職務に従事する。国家一般職高卒の場合、主に庶務、経理などのデスクワークが中心になる。ただし、採用官庁やその配属先によっては、実験の助手等、多様な職務に携わることもある。

●技術系職種

技術、農業、農業土木、林業の4区分で試験が行われ、採用後はこれらの専門を生かした職務に就く。

《技術》 主として、各省庁の出先機関において、専門性を生かした業務に従事する。例えば、地方整備局等における河川、道路、公園、港湾、空港等の調査・計画・施工・管理、防衛省の採用予定機関における電気機器・機械の整備、調達補給管理、自衛隊施設等の建設に必要な設計・監督・検査等の技術的業務が挙げられる。

《農業》 地方農政局等において、農畜産業の振興、食品の安全確保、土地改良事業の推進等の技術的業務に従事する。

《農業土木》 地方農政局等において、農業農村整備関連工事の測量、設計、工事現場の監督・指導の補助等の技術的業務に従事する。

《林業》 全国の森林管理局等において、森林の保

護・管理、造林等の森林施業および指導等の技術的業務に従事する。

試験構成

●一次試験

《基礎能力試験》[40題 90分・択一式]

公務員として職務を遂行していく上で必要な知識・能力を有しているかをみるための筆記試験で、出題科目は知識分野と知能分野に分かれる。

知識分野は、社会科学（政治・経済・社会）、人文科学（日本史・世界史・地理・倫理・国語・英語）、自然科学（数学・物理・化学・生物・地学）に分けられ、レベルは高校卒業程度とされている。知能分野は、文章理解（現代文・古文・英文）、課題処理、数的処理、資料解釈から構成される。

《適性試験》[120題 15分・択一式] ※事務のみ

事務職として求められる基本的な処理能力をみる筆記試験である。出題形式は、照合、分類、置換、計算、図形把握等と多様で、これらを組み合わせで出題されることもある。

《作文試験》[600字・50分] ※事務のみ

作文試験は一次試験において課されるが、その判定結果は最終合格者の決定の際の資料として、一次試験合格者を対象に反映される。

《専門試験》[40題 100分・択一式]

※技術・農業・農業土木・林業のみ

各職務に必要な専門分野の知識や技術を備えているかをみる筆記試験である。

●二次試験

《人物試験》 人物試験は個別面接で行われる。時間は15～20分程度、試験官は3～5人程度の形式で行われることが多い。なお、参考として性格検査が実施される。

●最終合格から内定まで

二次試験合格者は、最終合格者として得点順に「採用候補者名簿」に記載され、二次試験の際に受験者が提出する「採用志望カード」をもとに、「任用候補者一覧表」が作成される。この「任用候補者一覧表」に基づいて、採用予定のある各官庁は、各候補者に電話や文書で採用面接を受ける意思の確認をしたうえで採用面接を行い、内定が確定する。なお、「採用候補者名簿」の有効期間は1年

間となっている。

※官庁訪問

採用面接に呼んでもらうためには、志望官庁に出向いて、その熱意を積極的にアピールしておく必要がある。これが「官庁訪問」である。

官庁訪問には、各官庁が行う業務説明会に参加するほか、個別にアポイントメントを取って訪問するという方法がある。時期としては、二次試験前後に行われることが多い。

特集
②

国家専門職・特別職公務員試験ガイド

国家専門職

国家専門職試験は、特定の行政分野に関する専門的知識を重視する係員の採用試験で、採用後は一定期間の専門教育を受けたのち、それぞれの官署に配属される。なお、勤務の特殊性から、税務職員および気象大学校学生以外は受験に際して身体基準があるので、あらかじめ基準に達しているかを確認する必要がある。

●税務職員

〔職務内容〕 採用地域の税務署の職員として、国税の調査・徴収といった事務に従事する。

〔採用後〕 全寮制の税務大学校地方研修所に入学し、1年間研修を受ける。研修内容は、所得税法、消費税法などの税法科目、憲法、民法などの法律・経済科目等、簿記会計学、実務科目等がある。

●刑務官

〔職務内容〕 拘置所、刑務所、少年刑務所等で、再犯予防のため職業訓練指導や人生相談をして受刑者の矯正に当たる。その他、施設の保安警備等にも従事する。

〔採用後〕 法務事務官看守に任命され、憲法・刑法などの法規、教育心理学・医学等の基礎学科、護身術・体育等の実科・実務についての職場研修、合宿研修を受ける。

●入国警備官

〔職務内容〕 各地方入国管理局、入国者収容所入国管理センター等に配置され、不法入国や不法滞在等違反事件の調査、違反容疑者および被退去強制者の護送、収容所の警備等に従事する。

〔採用後〕 地方入国管理局官署で短期間勤務した後、法務総合研究所牛久支所で約3か月間、基礎

的な法律知識や外国語、逮捕術等の教育訓練を受ける。

●皇宮護衛官（高卒）

〔職務内容〕 皇居、御用邸等の警備や、天皇皇后両陛下をはじめとする皇族の護衛、国賓や外国の大公使の皇居参内時の護衛等に従事する。

〔採用後〕 警察庁の附属機関である皇宮警察本部に所属し、皇宮巡査に任命される。最初の10か月間は皇宮警察学校において皇室に関する教養、憲法・行政法・警察法等の基礎学科、警察教練・けん銃操法・逮捕術等の教育訓練を受ける。

●航空保安大学校学生

航空保安大学校に入校し、2年間、航空情報科と航空電子科に分かれて専門教育を受ける。卒業後は全国各地の航空交通管制部および空港において、航空交通管制業務に従事する。

☑航空情報科

航空機との無線電話通信、航空機の運用管理等の教育を受ける。卒業後は航空管制通信官または航空管制運航情報官として全国の各空港、航空路管制施設に配属されて、航空通信、航空情報の提供と運行管理業務に従事する。

☑航空電子科

一般教養、航空電子工学の各分野等の専門科目に加え、航空電子機器の操作等について教育を受ける。卒業後は航空管制技術官として全国の各空港、航空路管制施設に配属されて、管制情報処理システムの運用保守等に従事する。

●海上保安大学校学生

海上保安大学校に入校し、本科として4年間、専攻科として6か月間、基礎教育科目のほか、航海・機関・情報通信や、法律関係・海上保安行政

資料1 ● 2020年度（令和2年度）国家専門職／特別職公務員試験の概要

職種、試験区分等		試験構成						
		基礎能力		学科試験等	作文試験		面接・身体検査等 (特に記載のないものは2次で実施)	
		題数	時間		字数	時間		
国 家 専 門 職	税務職員	40	90	適性試験（択一式・120題、15分）	600	50	個別面接、身体検査、性格検査*1	
	刑務官	刑務A	40	90	なし	50	個別面接、身体検査、身体測定、体力検査、性格検査*1	
		刑務B						
		刑務A（武道）			実技試験（柔道または剣道）		個別面接、身体検査、身体測定、性格検査*1	
		刑務B（武道）						
	入国警備官	40	90	なし		50	個別面接、身体検査、身体測定、体力検査、性格検査*1	
	皇宮護衛官（高卒）	40	90	なし		50	個別面接、身体検査、身体測定、体力検査、性格検査*1	
	航空保安 大 学 校 学 生	航空情報科	40	90	学科試験（択一式・26題、120分）	なし	50	個別面接、身体検査、身体測定、性格検査*1
		航空電子科						
	海上保安大 学 校 学 生		40	90	学科試験（択一式・39題、180分 ／記述式・240分）		50	個別面接、身体検査、身体測定、体力検査、性格検査*1
海上保安 学 校 学 生	船舶運航システム課程	40	90	なし		50	個別面接、身体検査、身体測定、体力検査、性格検査*1	
	情報システム課程			学科試験（択一式・26題、120分）	なし			
	管制課程			学科試験（択一式・数英各13題、各60分）				
	海洋科学課程			学科試験（択一式・39題、180分）				
	航空課程			学科試験（択一式・26題、120分）		身体検査、身体測定、体力検査、性格検査*1、 個別面接、適性検査（操縦検査）*2		
気象大 学 校 学 生	40	90	学科試験（択一式・39題、180分 ／記述式・240分）			50	個別面接、身体検査、性格検査*1	
特 別 職	裁判所一般職（裁判所事務官・高卒）	45	100	なし		50	個別面接	
	国立国会図書館一般職（高卒）	実施なし						
	衆議院事務局一般職（高卒）		90	なし		60	個別面接	
	衆議院事務局衛視				なし	個別面接、身体検査、体力検査		
	参議院事務局一般職（高卒）	40	90	一般常識試験（記述式・40分）、 事務適性試験（10分）		60	グループワーク、個別面接、性格検査*1	
参議院事務局専門職衛視	個別面接、基礎体力検査、身体検査、性格検査*1							

注1）基礎能力試験・作文試験の時間の単位：分。 注2）刑務官のAは男子、Bは女子。

*1）面接試験の参考として実施。

*2）個別面接、性格検査、身体検査（精神および神経系検査）、適性検査（操縦検査）は三次試験で実施。

関係等について専門教育を受けるとともに、練習船による航海実習を行い、幹部候補生として海上保安業務に必要な知識・技術を学ぶ。

卒業後は国際業務対応能力習得のため研修科国際業務課程（3か月）に進んだ後、初級幹部職員として巡視船等で海難救助、海上での犯罪予防といった業務に従事する。

●海上保安学校学生

海上保安学校に入校し、1年間または2年間、船舶運航システム、情報システム、管制、海洋科学、航空の5課程に分かれて専門教育を受ける。

卒業後は、海上保安庁の中堅職員として海上保安業務に従事する。

☑船舶運航システム課程（航海・機関・主計コース）

教育期間は1年。英語、法学等の基礎科目、海難救助および海上犯罪の取締り、海洋汚染の監視等に関する科目のほか、コース別に航海・機関・主計の科目がある。また、練習船による乗船実習を行う。

卒業後は巡視船等の船舶の職員として運行操船、機関の運転・整備、調理・船内庶務等の業務に従事する。

☑情報システム課程

教育期間は2年。数学、英語、物理等の基礎科目、通信運用、電子工学、無線工学等の科目のほか、海難救助および海上犯罪の取締り等に関する科目、光波標識、電波標識等の航路標識に関する

科目がある。また、練習船や航路標識測定船による乗船実習、海上測定実習を行う。

卒業後は巡視船等における無線通信の運用、無線機器の整備等の業務、航路標識事務所、海上交通センターにおける航路標識機器の管理運用等の業務に従事する。

☑ 管制課程

教育期間は2年。英語、情報処理等の基礎科目のほか、情報通信、救難防災、通航管理等、運用管制官として必要な知識・技能を習得する。

卒業後は海上交通センター等で勤務し、船舶の安全な航行に必要な情報の提供、大型船舶の航路入航間隔の調整などを行う。

☑ 海洋科学課程

教育期間は1年。数学、英語等の基礎科目、海洋の科学的基礎資料の収集・解析等に必要の測量、天文、図誌等の科目のほか、練習船による海洋観測等がある。

卒業後は海上保安庁または各管区海上保安本部の水路部等において、水路測量、海洋観測、海図の作成等の業務に従事する。

☑ 航空課程

教育期間は1年。数学、物理、英語等の基礎科目のほか、海象・気象、航空通信運用等に関する科目がある。

卒業後は航空基地やヘリコプター搭載型巡視船で勤務し、飛行機またはヘリコプターの操縦士として、海難救助、海上犯罪の取締り等の業務に従事する。

● 気象大学校学生

気象大学校に入校し、4年間、気象業務の基盤となる気象学、数学・物理等の基礎系列、英語等の教養系列のほか、地震、火山、海洋観測等の実務訓練等、気象庁における将来の幹部職員となるために必要な知識・技能を習得する。

卒業後は、気象庁、管区气象台、海洋气象台等に配属され、気象・地震等の観測、調査、予報、研究等の業務に従事する。

特別職公務員

特別職公務員は原則として採用機関ごとに試験が行われる。試験日程、試験内容等もそれぞれの

機関によって異なるため、事前の情報収集が必要になる。

なお、特別職公務員のうち、防衛省一般職については、国家一般職採用試験からの採用となるため、ここでは割愛する。

● 裁判所一般職（裁判所事務官・高卒）

各裁判所に配属され、司法行政部門である事務局で庶務・人事・会計等の一般事務に従事したり、裁判部門において裁判所書記官のもとで裁判事務に従事したりする。

● 国立国会図書館一般職（高卒）

国立国会図書館において、図書館資料の収集や受入れ・整理業務および閲覧事務等の司書業務や一般事務に従事する。また国会、一般公衆、行政・司法の各部門に対して調査活動、資料提供等のサービスを行う。業務は細分化されており、各自がそれぞれ専門分野を受け持つことになるが、ローテーション業務体制もあり、館内全般の仕事を広く知ることができる。

● 衆議院事務局一般職（高卒）

衆議院事務局は衆議院の活動を補佐し、事務を処理するため設置されている。一般職高卒採用者は、主に一般事務（人事、会計、厚生等事務局の管理運営事務、議員や議員秘書に関する事務、施設・設備の管理、資料の収集・展示・印刷等）に従事することが多い。

● 参議院事務局一般職（高卒）

参議院事務局の組織は、会議運営部門・調査部門・総務部門の3つに分かれている。一般職高卒採用者は、参議院事務局内での一般事務（議員に関する事務、人事・会計等事務局の管理運営事務、会議録作成に関する事務等）に従事する。

● 衆議院事務局衛視

国会職員として国会議事堂に勤務し、衆議院内部の秩序保持のため、本会議場、委員会室等の警備ならびに議長、副議長、常任・特別委員長および議員等の警備に従事する。

● 参議院事務局専門職衛視

参議院議員事務局内の警務部に勤務し、本会議場、委員会室等議院内部の警備ならびに議長、副議長、政府要人、外国の賓客等の警護に当たる。

『公務員試験ジャーナル』
バックナンバーについて

本年と前年の『公務員試験ジャーナル』のバックナンバーは、小社サイト「教材 NAVI」でご覧いただけます。

高等学校のTOPページ(<https://www.jitsumu-kyouzai.com/highschool/>)より、「活用情報」→「指導情報」をご覧ください。